

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970200038		
法人名	有限会社 かもん		
事業所名	グループホーム いまざと元気村2		
所在地	奈良県大和高田市今里町19-36		
自己評価作成日	令和2年1月13日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2990200038-00&ServiceCd=320&Type=
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48-6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和2年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様には第2の我が家と思っていただけるよう、ゆったりと過ごしていただける空間作りをしています。近隣の散歩や地域の行事など、外出の機会を増やし、外へ出る楽しみを持っていただけるよう支援しています。また、自家農園で採れた野菜を使用した手作りの食事やおやつを職員と一緒に食卓を囲んで楽しんでいただいています。職員は、日々学びながらスキルアップを図り、入居者様の快適かつ安心安全に日常を過ごせるよう向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、交通量の多い国道に面しており、交通の便は良く、私鉄駅からのバスの停留所から徒歩1分のところにあり、木造2階建の1階が1ユニットのグループホームとなっている。居間は廊下に面した窓がおしゃれなデザインとなっており、狭さを感じさせない工夫がなされている。食事は、敷地内の畑や法人の農園で採れた野菜などを食材として、すべて職員が手作りで提供している。入浴は週3回とし、入浴しない日は足浴を行っている。地域の保育園の行事に利用者が招待されたり、事業所の芋堀に園児を招待するなど、相互の交流が行われている。天気の良い日の散歩や車で花見に出かける外出と共に、年1回法人全体で1泊旅行も行い、家庭的な雰囲気のもと、ホームに閉じこもることなく、毎日が元気に暮らせるよう支援している事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲示し、管理者、職員とも常に理念を念頭に置き日常の業務を行っている。	法人の運営理念を重要事項説明書やパンフレットに明記すると共に、玄関ホールにも掲示している。また、職員で話し合い事業所の年度目標を設定し、研修や朝の申し送りで確認して目標に向けた実践に取り組んでいる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩の中で挨拶を交わしたり、地域の祭りや行事には積極的に参加したり、当ホームの行事には近隣の方をお招きして日々交流をもっている。	天気の良い日は近くを散歩し、近所の顔見知りの方と挨拶を交わしている。自治会に加入し、秋祭りのだんじり曳きを見に行くのが利用者の楽しみになっている。地域の保育園の七夕祭りやクリスマス会に利用者が招待されたり、事業所のいも堀りに園児を招待するなど、相互の交流を図っている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りを2ヶ月に1回地域に回覧して頂いたり、近所の認知症カフェに行くなど交流を図りながら理解を深めていただいている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開き、地域や行政の方々から意見を頂きサービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議は、市の担当課職員、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、老人会代表、家族等が参加し、2ヶ月に1回開催している。会議では行事や利用者の状況を報告すると共に、意見交換を行いアドバイスなどを受けている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護福祉課や地域包括支援センターへ出向いたり、電話で連絡や報告を行い、良好な協力関係を築くよう努めている。	市の担当課とは、各種制度面で分からないことの問い合わせや相談したり、感染症に対する注意などの連絡を受けたり、利用者の生活保護の相談など密な連携を図っている。また、市主催の福祉祭りに利用者と共に参加している。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の理念に掲げ、研修の場においても職員に理解を深めてもらえるよう日々取り組んでいる。玄関の施錠については、外部からの不審者を防ぐために行っており、ご家族にも説明している。	身体拘束をしないケアに取り組むことを契約書や重要事項説明書などに記載している。玄関は施錠しているが、外出願望の方にはその都度職員が付き添い外出している。身体拘束等の適正化委員会を開催し、職員で話し合い実践に繋げている。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や高齢者虐待防止マニュアルに基づく社内研修の実施、また、行政から送られてくる資料の提供を行い、職員間の申し送りの徹底をはかり防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月行っている研修会の中で、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けて知識を深め、必要時に活用できるよう取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明後に、疑問や質問については納得を得られるように心掛けている。またその都度、管理者が対応できる体制をとっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会などイベント時において意見や要望を聞く機会を設けている。	利用者の要望は日々の生活の中で職員が汲み取り、家族の要望は面会時に聴き、訪問がない家族には電話で情報交換している。また、家族会を開き、家族から個別に話を聴く機会を設け、要望などをサービスに活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月研修会を行い、必ずスタッフ全員が意見や要望を発言する機会を設けて、提案する内容が反映されるように努めている。	管理者は、日常の活動の中で職員の意見を聴いており、重要な案件は毎月の職員会議の場で提案を受け話し合い業務に活かしている。職員の意見から役割分担を明確化し休憩時間を取りやすく改善した事例がある。毎月の研修会は、職員が交代でテーマを決め発表している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課があり、自己評価と他者評価を行い面談をしている。また、キャリアパスの導入で各自向上心を持てるよう日々職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と判断した研修に参加を勧めている。研修内容を事業所の研修時に発表してもらい情報の共有を図っている。また、新人スタッフには一定期間担当指導者がついて介護力アップに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等への参加により、交流する機会を設けており、ネットワークづくりやサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の方とゆっくりコミュニケーションをとれるように努めている。特に初期は夜間に不安を持たれないように安心の持てる環境作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人に最良なサービスが提供できるよう、ご家族の想いや要望を時間をかけてお聞きしている。また、初期はお互いの理解を深められるように、ために連絡を取り合うようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望をお聞きし、職員、主治医との話し合いを行って、必要とされているサービスに繋げている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物の畳み、野菜の皮むき等、日常の家事を一緒にやり、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人に対するご家族の思いを聞き、それに沿えるよう支援し、生活状態に変化があれば共に介護体制に加わって頂き一緒にご本人を支えていける関係作りをしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会があれば、ご家族の了解を得たうえで、居室などで気兼ねなく話ができるよう支援している。	家族と外出し、馴染みの店で食事をしたり買い物をする方や日帰りで自宅に帰ったり墓参りをする方もいる。家族以外に知人の訪問もある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団らん時にお互いの懐かしい話や共通の話などで会話が弾むように関わり、共同作業(家事手伝いなど)でお互いが労り、支え合える関係が築けるように支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族からの相談にも随時対応し、情報交換や助言を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中でご本人のニーズを引き出し、ご家族から情報を提供して頂きその人らしい生活が送れるように支援している。	利用開始時に本人と家族から生活歴や趣味嗜好を聴き取り、把握し共有している。各利用者の担当職員が日常生活の中の会話で思いや意向の把握に努めている。例えば、食べたいものの希望を聴き、食事やおやつの献立に活かしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、保護者や入居前に関わられていたケアマネジャーに、ご本人の生活歴等の情報を提供してもらっている。また、日常の暮らしの中で何気ない会話や行動からも情報を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務交代時にきちんと申し送りをすると同時に、申し送りノートや生活リズム表など記事記録を活用し、スタッフ全員が共通認識として把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の研修で担当者を中心に本人の課題を話し合い、ケアマネジャーを中心にモニタリングを行い、家族の意向も聞いて介護計画に反映している。	各利用者の担当職員が、利用者や家族から暮らし方の希望を聴き、日ごろの暮らしから生活上の課題を提案し、ケアマネジャーが中心になり話し合い介護計画を作成している。半年ごとにモニタリング結果をまとめ、介護計画を更新している。	事業所の年度目標の一つでもある「利用者の強みを生かせる暮らし」を実践するためにも、生活上の課題だけでなく、本人の生活歴や好きなこと、得意なことを把握し、プランに活かす取り組みがあれば良いと思われる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を分かりやすく個別に記録し、毎月のケアカンファレンスで情報を共有し、介護計画に反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況に合わせて受診介助を行い、入院時は手続きや洗濯物などの支援等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の持っているネットワークを活かし、ご本人に応じた支援を行えるよう努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診時、また、往診時に本人の変化等について相談をしている。そして、日々看護師による訪問を行って、変化があればその都度ご家族に連絡している。	事業所の協力内科医が月2回訪問診療を行っている。その他の医科には、基本的に家族が付き添い受診している。週1回歯科衛生士が訪問して口腔ケアを行っている。また、訪問看護師が日々の健康管理を行っている。週1回、全員認知症デイケアに通っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置しており、医療への対応もできる体制作りをしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室と情報交換している。病院訪問時も医師や看護師と情報交換するようにして良好な関係を構築している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向をまず聞いている。次にご本人の体調の変化に合わせてかかりつけ医、看護師を交えたカンファレンスを行っている。	「看取りの指針」を作成し、本人が重度化した時、かかりつけ医や看護師、家族が一堂に会して今後の方針を話し合っている。しかし、本人が食事が摂れなくなると医療機関へ入院を勧めており、これまでのところ事業所での看取りの事例はない。	多くの方が自然死を望む昨今、もし利用者や家族に看取りの意向があれば、事業所での看取りができるよう協力医療機関と話し合い、事業所の「看取りの指針」に基づいた看取りの体制づくりの取り組みを期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修会で応急手当や急変時の対応について話し合い、職員全員が対応できるよう勉強会を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行うと同時に避難方法等について話し合い、誰もが対応できるよう周知徹底している。	防災避難訓練を年2回行い、内1回は夜間想定での避難訓練を利用者も参加して行っている。この地域は、市の洪水ハザードマップ上浸水地域になっており、洪水発生時は2階へ避難することになっている。飲料水や食料を3日分以上の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩と常に考え、お世話させて頂いているという思いを意識しながら対応している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、一方的に世話する関係ではなく、利用者からも元気を頂き、感謝の気持ちで支援するよう努めている。接遇に関する研修も行い、排泄や入浴介助において、羞恥心やプライバシーに配慮した支援を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症のレベルに合わせて、思いを表現できる場面を作り、自己決定できるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて、その日、その場面で臨機応変に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はご自分で選んでいただくよう声かけをしている。髭剃りやヘアースタイル、お化粧品などはその人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家農園で採れた野菜の選別や食事の準備、片付けは一緒に行っている。また、職員も一緒に食卓を囲んで食事を楽しむようにしている。	食事は、管理栄養士がメニューを作成し、事業所の畑や法人の農園で採れた新鮮な野菜などを食材とし、利用者の希望を聴きつつ職員の手作りで提供している。職員も利用者と同じ料理を同じテーブルを囲み食事を楽しみ、とても家庭的な雰囲気がある。また、誕生日には、手作りケーキを提供している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はその都度きちんと把握し、その方の状態に応じた摂取量になるよう支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、支援を行っている。入居者の皆さまも歯磨きが習慣となっている。また、希望者には訪問歯科による口腔ケアも毎月行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導の声掛けで入居者の自尊心を傷つけないよう注意している。	各利用者の排泄パターンを把握し、その方にあった適時な声かけでトイレ誘導を行い、できるだけ便器に座り自然な排泄をしてもらえるよう支援している。昼間は全員リハビリパンツとパットで対応し、おむつ着用の方はいない。3ヶ所のトイレはカーテンで仕切られている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンの把握、散歩や体操、食べ物や水分補給などの工夫をしている。便秘がちの方は医師、看護師と相談し対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの入浴時間は個人に応じて対応しているが入浴日は決めている。	入浴は、週1回利用するデイケアでの入浴も含めて、週3回できるよう支援している。また、入浴日でない日は、足浴を行っている。入浴剤を使ったり、ゆずを入れたり楽しんでいる。近くの観光地に足湯に出かけることもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自居室にて常に安心して休息して頂けるよう配慮に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況の把握を行い、変化に応じ医師の指示を受け看護師と調剤薬局との連携で服薬指導を受けている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味嗜好や生活歴など背景を考慮しながら、本人が役割を持つことで生き生きとした生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員が個別ケアで支援を行って、出かける楽しみが持てるように支援を行っている。	天気の良い日は近所に散歩に出かけたり、庭に椅子を置き、外気浴しながらお茶を楽しむことがある。週1回デイケアに車で全員出かけている。また、車を使って季節の花見に出かけることもある。さらに、法人が運営する4つのグループホーム合同で毎年1泊旅行に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さは理解されているが、認知が難しいため管理は保護者が行っている。買い物に出かけた時は、レジでお支払い行為ができる方にはお金をお渡しし、ご自身で支払い行為をして頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から希望があった場合、電話の操作を支援したり、話が上手く伝わらない場合は職員が間に入ったりして、ご家族や知人との繋がりを大切にしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りのカレンダーや作品、写真、季節の掲示物、花を生けるなどで季節を感じていただき、居心地の良い空間作りに努めている。	居間は、細長い間取りで廊下側の壁にはおしゃれなデザインの窓があり、広がりを感じられる。オープンキッチンがあり、職員が調理する音や香りが居間のテーブルまで伝わり食欲を誘っている。壁には、利用者の写真や一人ひとりの今年の目標が掲げられている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやダイニング等で自由に好きな場所で、心地よく過ごせる場の調整に努めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や寝具を持参して頂いている。また、思い出の写真なども居室に置いてもらい、落ち着く空間作りに工夫している。	居室入り口には、大きな表札が掲げられ、室内は備え付けのベッドがあり、居心地よく暮らすための家具や趣味の品ものが家族の協力で持ち込まれている。また、壁には家族の写真などを飾り、落ち着いた雰囲気の居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできることには見守り、自己能力をできる限り活かしていただけるよう支援している。		